

Title	事變と大學
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1939
Jtitle	史学 Vol.17, No.3 (1939. 4) ,p.104(444)- 104(444)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390400-0104">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19390400-0104</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 事 變 と 大 學

此度の事變に際し各種報導機關の活躍は目覺ましい所があるが、之に反し、國內學術機關主として文化的方面に於けるものゝ活動には未だしき點がある様に思ふ。國を擧げての戦ひに國內の智力體力金力の全ては動員せらるべきに、頭腦の動員に甚だしき缺陷があるのは残念である。民族と民族との争闘は野蠻時代にあつてはいざ知らず、今日にあつては、文化と文化との戦に意義づけられねばならぬ。然るに此度の戦に智識階級の間には充分の戦時意識の徹底が見ないのは種々なる點よりは正せられねばならぬ。戦争の場合先づ吾人の關心を促すのは、現地に於ける文化資財——圖書館、大學、博物館、古蹟等——の安否である。此等の資財の中には、一度失つてはまた恢復出来ないものもあり、その重要性は支那のみならず支那の文化を受けつげる日本にとつてまた世界文化の立場からも強調しなければならぬものである。凡そ世界史の立場から言ふと戦争は瞬間であるが文化的接觸は永久性をもつてをる。豊太閤の朝鮮役は大した文化的効果をもたらさなかつたが、同役につれかえつた俘虜によつて我國の陶業などは一大躍進を遂げてをる。那翁のエジプト役は戦役としては失敗であつたが、彼の隨伴した學者によりエジプト學は生誕した。今次事變を文化的に意義づける爲に我國文化團體の奮起が望ましい。しかもその活動は早ければ早い程効果を擧げ得るのである。さしあたり支那の古蹟に最も關心を持つてをる東洋史關係の學界が中心となり、各大學聯合の運動を起し、軍部の支持を得て大陸の文化的諸問題の處理に純粹學徒の立場から協力をなすべき時代は到來してをると言はねばならぬ。一體支那の文化的遺物は事變前から甚だ保護不完全で吾人はその或物に對し國際的管理の必要をさへ感じてゐたのである。今度の様な機會に際し我國が進んで之が保護管理の任に當り、その利用に對しては世界の學者に對しても自由を與へる底の寛容さが望ましい。然るに現下その方針は却て反對方向をとり、管理はするが事變前よりも或點は狭量な取締りさへ加ふるが如き徵あるは誠に寒心に堪えぬ。此等は要するに國內學徒の冷淡がもたらした結果と言はねばならぬ。我國學界が全面的に東亞問題の處理の爲め奮起する必要を吾人は痛感する。(松本信廣)